



# 車に乗ったらまずベルト

## あなたを守る“命の綱” シートベルト着用推進運動

### 8月1日～31日

あなたは車に乗っているとき、シートベルトを着用していますか？昨年一年間に交通事故で亡くなった方の約四〇％近くは、ドライバーや同乗者です。

車に乗っていて万が一事故に遭った場合、その被害を防止したり軽減するのにシートベルトは大きな役割を果たします。

#### 夏は交通事故が増加

夏は、暑さによる心身の疲労に慣れて、レジャーや帰省などでマイカーの利用が増え、毎年、交通事故が増加する傾向にあります。

しかし、「面倒だから」、「きゅうくつだ」などの理由で、シートベルトを着用しないドライバーや同乗者が大変多い状況です。

こうしたことから、八月は「シートベルト着用推進運動」が全国的に行われます。ドライバーや同乗者の皆さん、ぜひ、この機会に車に乗ったら、まずベルトを着用習慣づけてください。

シートベルトは、交通事故からあなたの生命を守る“命の綱”です。

#### 時速二十キロでも衝撃は体重の六倍以上

もしもあなたが「衝突事故が起きても、ハンドルをしっかり握って、腕や脚で体を強く支えていれば生命は守れる」と思っているとしたら、それは、とてもない思い違いと言わなければなりません。車が衝突したときの衝撃は、とても信じられないほど大きいのです。

実験により、時速六十キロで走っている車が固定壁に衝突すると、その衝撃は、なんとビルの高さ(約十四メートル)から落ちたときのショックに等しいと言われています。

また、体重六十キログラムのドライバーが時速二十キロの速度で固定壁にぶつかったとしますと、その時に受ける衝撃は、体重の六倍以上に相当する重さの物がぶつかってきたのと同じ力が動くと言われます。

#### 腕や足では支えきれない

しかし、人間の体が普通の状態を支えられる力は、腕で五十キログラム、脚で百キログラムが限度とされています。

このことから、衝突事故に遭った場合、自分の腕や脚だけで生命を守りきれものではないことが、同時に、シートベルトがぜひとも必要なことがお分かりいただけると思います。

#### シートベルトの効用

衝突事故による被害を最小限に食い止めるために、シートベルトはどのような効力を発揮するか、具体的に見てみましょう。

- フロントガラスや車内の突起物に頭や胸を強打することを防止できる。
- 衝突時のショックによって、車外にはじき出されることを防止したり、万一火災を起こしたときなどでも激突で意識を失うこともなくなるので、車外に避難できる。
- 正しい運転姿勢が確保され、ハンドル操作が確実になる。
- 体が固定されるから、運転に注意力が集中し、カーブやでこぼ

こ道でも、さほど疲れないで運転できる。

#### 八割のドライバーが無着用

シートベルトにはこのような効果があるにもかかわらず、約八割の人が着用しないで運転しています。

最近ではシートベルトの性能も一段とよくなり、バックルをセットするだけで簡単に着用でき、そのほとんどがワンタッチ方式。わずか数秒で着脱ができ、わずらわしさや束縛感はありません。

車に乗る方は、シートベルトの着用こそ安全へのパスポートを合言葉に、安全運転を心掛けましょう。

## 夏の交通安全健民運動

### 八月十一日～二十五日

#### みんなの安全 みんなで守ろう

#### ◆重点項目

- 過労運転、暴走運転の防止
- 子供の交通事故防止
- 自動二輪車・原動機付自転車の交通事故防止
- シートベルト着用の推進

#### ◆安全運転五則

- 安全速度を守る
- カーブの手前でスピードを落とす
- 交差点では安全を確かめる
- 一時停止で横断歩行者の安全を守る
- 飲酒運転は絶対にしない